



昨年、自然放鳥されたコウノトリ

手探りの毎日

日本で野生のコウノトリが絶滅して、35年。かつて日本の各地を悠々と舞っていたが、昭和46年、但馬から最後の1羽がその姿を消した。

コウノトリは「里の鳥」である。フナやドジョウなどを主食とし、田んぼや川辺などの田園地帯を活動拠点とする。そこは里山のある場所。

しかし、農業の影響などによるエサの激減や、巣づくりするための木が減ったことなどから数は徐々に減少し、ついに日本から絶滅した。同時に、それは日本がコウノトリの住める環境を失ったことを意味した。

最後の生息地となった豊岡では、急激に個体数の減少を招いた昭和30年代以降、官民一体となった保護活動が行われ、コウノトリを捕獲し、飼育下での繁殖が試みられてきた。

昭和40年には、全国唯一の人工飼育専門施設として、「コウノトリ保護増殖センター」が誕生する。

元飼育長、松島興治郎を中心に、捕獲したコウノトリの繁殖に懸命な努力がなされた。松島はセンターができたと同時に管理人に就任。その日から飼育場に24時間住み込み、コウノトリの繁殖・飼育に情熱を注いできた人物。誰よりもコウノトリの

生態を知る男であった。

しかし、捕獲したコウノトリは、卵を産むもののヒナがかえることはなかった。いたずらに過ぎる時間。

そんな受難の時代が続いた保護活動に、昭和60年、転機が訪れる。旧ソ連から6羽の幼鳥が贈られ、その4年後、待望のヒナが誕生したのである。

センターができて24年目の朗報であったが、そこからさらなる試練が始まる。毎年、繁殖に成功するものの、飼育数は増えていかなかった。コウノトリの繁殖・飼育には、「マニュアル」は存在しない。すべてが未知の領域。

平成3年、松島に次ぐ専門飼育員となった佐藤は、当時をこう振り返る。

「試験放鳥するには、100羽の飼育数が目安とされていました。私が入った当時は14羽。初めはねずみ算式に、2、3年後にはクリアするだろうと思っていたのです。でも、実際にやってみると違う。特にペアリングは難しく、うまくいった方法が必ずしもすべての鳥に当てはまることがないのです」。

4半世紀かかったヒナ誕生から飼育数100羽の到達まで13年、さらに試験放鳥まで3年の歳月が流れた。

様々な人々の思いが託された世界初の試験放鳥。開けられた箱から気持ちよさそうに飛び立っていく。コウ

メガネのJOY15周年、豊岡駅前に移店しました。

1つのメガネで快適な視野を手に入れる
遠近両用、中近両用メガネなら、手元から遠くまで快適な生活シーンを提供。
老眼用、近視用と2つのメガネをかけ直すわずらわしさも解消できます。

広がる!! 生活空間

お客様の視生活を快適にして頂くよう、ご相談・実体験できます。

豊岡駅前
メガネの **JOY** ジョイ

豊岡市大平町1-23 TEL.0796-22-1688

セール期間 11月～12月

地域に愛されて...
15周年記念セール開催

全品セール価格より、さらに15%オフ

メガネの **JOY**



巣づくりをする放鳥コウノトリ

ノトリが上空に帰ってきた光景を目にし、誰もが大きな歓声をあげた。

飼育員の佐藤。ほっと胸をなでおろした。だが、これからの道のりが本当に険しいものだど、悠然と空を飛ぶ姿を見つめながら考えていた。

「生きのびてくれよ」。また、心配性の虫がうずき始めた。

潜在能力の高さ

放鳥から1カ月が過ぎ、放鳥コウノトリの行動にも様々な変化が見られるようになってきた。ペアで行動することが多くなり、コウノトリの郷公園近くの田んぼで、自力でエサを探ることも日に日に増えていった。

しかし、行動範囲は郷公園周辺に限られた。本来は渡り鳥の性質をもつ鳥。「飼育したコウノトリが、遠く自由に大空を駆けめぐることが無理なのか」。不安にかられるスタッフ。

少しでも自然界に近い形で、放鳥コウノトリの飼育ゲージは広くとり、羽根の筋力トレーニングを行った。

「せめて出石までは飛んで欲しい」。試験放鳥から約4カ月が経とうとしていた平成18年1月20日。郷公園に大きな知らせが入った。1羽がなんと、京都府宮津市まで移動したのだ。

その後、このコウノトリは福井県若狭沖から大阪市まで南下。さらに、

宝塚市、神戸市、福知山市を経て、怪我もなく郷公園に無事戻ってきたのであった。

まさにコウノトリの潜在能力に驚かされる大冒険の旅。スタッフ全員が、「自分たちのやってきたことに間違いはなかった」と確信する出来事でもあった。

よく観察しろ

放鳥コウノトリの能力の高さを感じていた頃、もう一方の試験放鳥コウノトリに異変が起きていた。その試験放鳥とは、風切り羽根の一部を切ったペアを天井のないオープンゲージで飼育・繁殖させ、巣立ちした幼鳥を自由にさせる段階的放鳥のことをいう。

例年になく大雪で環境は最悪だったが、3月の終わりに無事産卵。この卵はリスクを避けるため、別のペアの卵と交換されたが、ヒナもかえり、順調に子育てが始まっていた矢先、事件が起こった。

ヒナをトンビが襲ったのだ。飼育員たちにとつては思いもよらない出来事。親鳥がヒナに与えていたエサを狙っての行動だった。今まで外敵に襲われることのない親鳥は、パニックになった。

原因はちよつとしたエサの時間帯によるものだった。段階的放鳥コウ



公共工事
実績多数

● 現場スタッフをサポート
● 土木設計
● 土木監理
● 土木工事

豊かな暮らしをサポートします

給水はもちろん！水廻りやトイレづくりも！
どんな小さなことでもお気遣いごめんなさい。






建築なら
全ておまかせ

● 下水工事でもOK!
● 2階建て
● 3階建て

新築・リフォーム ☎ 0120-577-406

〒698-0016 兵庫県東洲南一丁目1878-17
TEL.0798-34-8980 FAX.0798-34-8977 <http://www.shinai-kansetsu.com/>

有限会社 **新栄建測**

シンケンホーム
[シンケン]



試験放鳥前、放鳥箱を使っのシミュレーション



人工巣塔で巣づくりを始めるコウノトリ



放鳥コウノトリに発信器をつける作業の様子

挑戦はまだ続く

コウノトリ放鳥から1年。自然放鳥された5羽のコウノトリは、元気に大空を翔回っている。人工巣塔ではなく危険な電柱に巣づくりを始めるなど、人間たちをハラハラさせながらも、彼らなりに必死で自然と向

き合っている。「電柱に巣をつくることも、電柱のある場所がエサ場に近く、そこで巣づくりを行わざるをえない環境な のかもしれない。コウノトリの野生 復帰は、まだ始まったばかり。課題 をひとつずつ乗り越えていかなければ なりません」と、佐藤は話す。

「コウノトリ野生復帰プロジェクト」。これは単なるコウノトリを野生に返すという挑戦ではない。コウノトリが 翔る郷を復活させることは、人と自 然がバランスよく共存した環境条件 を取り戻すことである。

「電柱に巣をつくることも、電柱のある場所がエサ場に近く、そこで巣づくりを行わざるをえない環境な のかもしれない。コウノトリの野生 復帰は、まだ始まったばかり。課題 をひとつずつ乗り越えていかなければ なりません」と、佐藤は話す。

「コウノトリ野生復帰プロジェクト」。これは単なるコウノトリを野生に返すという挑戦ではない。コウノトリが 翔る郷を復活させることは、人と自 然がバランスよく共存した環境条件 を取り戻すことである。

「コウノトリ野生復帰プロジェクト」。これは単なるコウノトリを野生に返すという挑戦ではない。コウノトリが 翔る郷を復活させることは、人と自 然がバランスよく共存した環境条件 を取り戻すことである。

「電柱に巣をつくることも、電柱のある場所がエサ場に近く、そこで巣づくりを行わざるをえない環境な のかもしれない。コウノトリの野生 復帰は、まだ始まったばかり。課題 をひとつずつ乗り越えていかなければ なりません」と、佐藤は話す。

「電柱に巣をつくることも、電柱のある場所がエサ場に近く、そこで巣づくりを行わざるをえない環境な のかもしれない。コウノトリの野生 復帰は、まだ始まったばかり。課題 をひとつずつ乗り越えていかなければ なりません」と、佐藤は話す。

「電柱に巣をつくることも、電柱のある場所がエサ場に近く、そこで巣づくりを行わざるをえない環境な のかもしれない。コウノトリの野生 復帰は、まだ始まったばかり。課題 をひとつずつ乗り越えていかなければ なりません」と、佐藤は話す。

ナチュラルでやさしい空間作り
 快適な生活に欠かすことのできないものを空間全体で提案させていただきます。

〒869-5281 兵庫県朝来市和田山町牧田756
竹田家具 TEL 079-672-3456 <http://kinckagu.com>